被災地を元気づける活動に向かう「宮城県を元気にする高知応援隊」のメンバー（高知市内で）

「宮城に元気」応援隊57人

炊き出し 鳴子踊り 爪の手入れ

応募3日で結成

東日本大震災の被災地を応援する県民有志のボランティア隊「宮城県を元気にする高知応援隊」が結成され、17～19日、宮城県で活動する。交通費は自費ながら、「少しでも力になりたい」と会社員ら57人が参加する。被災地では高知県の食材を使った「土佐あかうしカレー」や「ナスのたたき」などを振る舞い、よさこい鳴子踊りを体験してもらう企画も取り入れている。

（沢本梓）

5月9日、高知市内で宮城県議らが大震災の被災状況などを報告するフォーラムを企画した高知県内の事業主らが、会場で約90万円の募金を集め、「被災地のニーズにあった支援を」と応援隊を結成。5月下旬、インターネットなどで隊員を募集すると、わずか3日で23～61歳の57人が集まった。

応援隊は17日に高知を出発。仙台市や東松島市の被災地を視察した後、18日には南三陸町、気仙沼市の避難所で昼食の炊き出しを行う。土佐あかうしやナスのほか、高知県の野菜をたっぷり使った野菜スープやサラダを提供し、地酒も振る舞う。また、正調鳴子踊りを被災者に踊って楽しんでもらう教室も開く。

9日、高知市内で開かれた説明会では現地での活動内容などを確認。メンバーは運送や出版、コンサルタントなど様々な職種の会社員ら。同市南御座のネイリスト平田有紀さん(38)は被災者らの爪のケアをして回る。「避難所では爪切りが足りず困っていると聞いた。自分の技術が役に立てば」と話す。

副隊長を務める「南国運送」の磯木保広社長(44)は大震災直後、物流網がまひし、物資が被災地に届かないことに、「震災と輸送は密接につながっている」と強く感じた。支援活動とともに、「南海地震が起きたとき、家族や会社を守るためにどうすればいいのか。被災地で何かを学んできたい」としている。

被災地からは継続的な支援活動を求められており、高知応援隊は、今回だけにとどまらず、活動の幅を広げていく。

平成23年6月10日　読売新聞